

④9 奥塩原大沼の森 森林・湿原・湖沼など多様で豊かな自然環境と天然広葉樹再生の森

【概要】奥塩原の富士山(ふじやま)の麓に位置し、日本で第一号の自然研究路として整備された「塩原自然研究路」の一部をなす大沼・ヨシ沼周辺の森林・湿原・湖沼などの多様で豊かな自然環境と天然広葉樹再生の森。

【森林の特徴と見所】

奥塩原の多様な森林景観が見られる標高1184mのトロイデ式火山の富士山(ふじやま)の下部には、約10万年前の高原山系の火山活動に伴う亀裂群等の地形に起因する大沼、ヨシ沼、赤沼等の多くの湿地が形成されている。この地域は日本で第一号の自然観察路として整備された「塩原自然研究路」の一部をなし、四季を通して森林・湿原・湖沼といった多様で豊かな自然の中において森林浴や自然観察が楽しめる場所として知られている。

大沼は、沼の東側は通年水をたたえ、西側はヨシの群生地となっている。南岸一帯には、ブナ、ミズナラ、ハルニレ、トチノキ、カツラ等の天然広葉樹の巨木群が見られ「森林浴の森100選」に選ばれている。また、6月ごろにはモリアオガエルが沼の水辺の樹木の枝に卵塊をつくるなど多様な動植物の生息することで知られている。

近年整備された「赤沼～大沼自然観察歩道」は、赤沼・狩場沼・夏沼を巡る自然観察道である。これらの沼は季節により水のない時期もあるため魚類は棲息しないが、モリアオガエルやクロサンショウウオ等の両生類の貴重な棲息地として知られている。また、周辺はカラマツ、スギ、ヒノキ等の人工林が点在するものの、そこにはクリ、ミズナラ、サクラ類、カエデ類などの広葉樹を多く見ることができる。現在、これらの広葉樹を活かした水辺林の保全と広葉樹の森の再生を図るため、ヒノキ、カラマツ、アカマツ等の造林木の除伐が行われている。

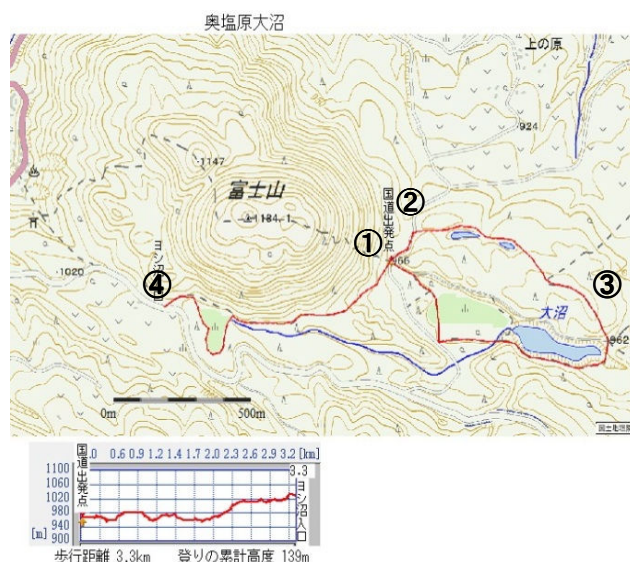
ヨシ沼は、その名のとおりに大部分がヨシの群生地であり、モウセンゴケやミツガシワ、ヒツジグサなどが見られるほか、我が国最小のトンボであるハッチョウトンボやアカハライモリなどの棲息地となっている

大沼周辺の森林は、明治時代までは宇都宮藩の藩林で、藩の需要を満たす程度にクリなどが抜き

伐りされたが、基本的には天然林であったとされる。日清戦争の後、明治30年代には、増大する木材需要を満たすため、大沼の南岸と富士山一帯を除いて大部分の天然林がヒノキ等の人工林へと転換された。昭和30年代に入ると、明治37年(1904)ごろに植えられたヒノキ人工林が伐採時期をむかえ、「野州(やしゅう)ヒノキ」の名で供給され、戦後復興の高度経済成長期を支える一助となった。その後、伐採の跡には、ヒノキやスギの他、カラマツ、アカマツなどが植栽され、現在に至る。

【歴史文化】

塩原温泉は、大同元年(806)に発見されたと伝えられる古い歴史を持つ温泉郷。新湯を含む「塩原十一湯」に150を越す源泉があり、さまざまな泉質の温泉が湧き出ている。なお、塩原八幡宮に残る「逆杉」(国指定天然記念物)は必見の巨樹。

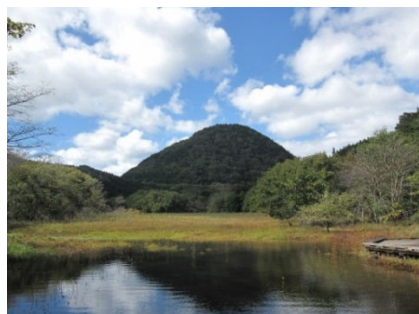


【コース紹介】

大沼園地①を出発し、赤沼入口②より「赤沼～大沼自然観察歩道」に入る。赤沼、狩場沼、夏沼の順で現れる歩道は大沼東端③の「塩原自然研究路」へ。塩原自然研究路を大沼南岸より大沼園地①に至る。ヨシ沼④には大沼園地から歩行約40分。コース3.3km、観察時間も含み3～4時間。



大沼園地駐車場・休息/トイレ棟



大沼より富士山（新湯富士）を望む



「赤沼～大沼自然観察歩道」広葉樹林の再生



大沼南岸の原生的森林



ヨシ沼

コースで見られる主な植物等

【木本類】ミズナラ、ハルニレ、トチノキ、ブナ、カエデ類、ヤマザクラ、カンボク、人工林（ヒノキ、カラマツ他）【草本類】エンレイソウ、アズマイチゲ、ワタスゲ、ミツガシワ、ヒツジグサ、モウセンゴケ

【一言メモ】

大沼の西に位置する富士山（新湯富士と呼ばれる）は、約6千年前に形成された熔岩ドームといわれ、西麓の新湯の爆裂火口跡では今も噴気孔が見られる。大沼より遊歩道が整備されており、ミズナラ、ブナ等の広葉樹林を抜けると、山頂部にはアスナロ、クロベ、サワラ等の原生的な自然林と植生の変化を観察することができる。コースは健脚向き。

野外講座企画のための情報

FS指数：2B 水平距離：3.3km 登高139m

トイレ：大沼園地駐車場・塩原八幡宮（逆杉）

昼食場所候補：大沼のウッドデッキ

安全上の留意点：一部車道を歩行、通行車両に注意

近隣の見所：塩原八幡宮「逆杉」、塩原ビジターセンター